

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2021年5・6月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第620号

先ごろ世界経済フォーラムが、2021年の男女平等度を示す「ジェンダーギャップ指数」を発表した。日本は156カ国中120位であった。19年12月の前回調査から順位を一つ上げたが、G7の中では依然として最下位とのことだ。新聞の解説によると、日本は特に政治分野で女性の社会進出の遅れが目立つと言う。この発表の少し前に、東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗前会長が「女性理事を選ぶつてのは、文科省がうるさく言うんです。だけど、女性がたくさん入っている理事会は時間がかかります」と女性蔑視発言をした。この二つの報道に接して、二つの個人的な経験を思い出した。一つ目は神学校での授業での出来事だ。私は1980年代の中頃、米国内でキリスト教神学を学んだ。当時、アメリカの神学校では、伝統的な神学に加えて、フェミニスト神学、黒人の神学、アジアの神学、ラテンアメリカの解放の神学が、脚光を浴びていた。私もこの機会に是非と思い、ある年、フェミニスト神学の授業を受講した。クラスは15名で、その内、男性は私を含めて2人だけだった。もう1人の男性は、神学

校の卒業生で、博士課程に編入してきた40代後半の牧師だった。実は、この男性は授業中によく「しゃべる」人で、発言を始めること止まらない。森前会長が見ても、「話しが長い」と断定できる人だった。ある時、この牧師が授業中に教師の講義を遮り、いつものように長々と持論を展開した。発言が終わった時、同じ

## 「ジェンダー平等」とアカデミー運動



関西セミナーハウス活動センター運営委員 山本 俊正

ニスト神学を専門にしている日本人女性と会話をしていた時のことだ。二人の共通の知人である女性の名前を、私がなかなか思い出せなかった。私は「ほら、あの頭がよくて、関西出身で、とてもきれいな、美人で、名前がおもしろくないな」と言った。その途端、相手の女性に、「山本

クラスの女性が手を上げて立ち上がり、彼に向かって言った。「あなたは、いつも、発言が長すぎますよ。私たち女性、この2000年間、ずっと男に黙らされてきたのを知っていますか?」。フェミニスト神学の核心を突く問いかけで、忘れることが出来ない。もう一つの出来事は、もう20年以上前のこと。フェミニ

さん、女性はみんなきれいで、美人なのですよ」と奢められた。調べて見ると、三省堂の「国語辞典」では、2014年に「すごい美人だ」など、男性目線で書かれた「美人」という用例は大幅に書き換えられ、辞典から消えている。また同社の「新明解国語辞典」や岩波書店の「広辞苑」でも、「ジェンダー平等」をめざす機運が高まり、LGBTQ(性的少数者)への理解に合わせ、ジェンダーにまつわる言葉の解釈が見直されている。

「ジェンダー平等」を目指すフェミニズム理論は、女性の抑圧の根源に、家族制度が存在することを主張してきた。「家族」の領域の仕事は女性が無償でを行い、「家」の外の経済、政治などに関連する、有償の仕事は男性が担うという棲み分けだ。「ケア労働」と呼ばれる仕事は圧倒的に女性が従事している。家事(食事、掃除、洗濯、育児)、家族の介護は、無償の「ケア労働」だ。保育士、看護士、介護士、大半は女性が担い手である。この性別役割分業は現在も日本社会に深く根を張っている。女性の居場所は家庭であるという封建的・家父長的価値観は依然として根強い。しかし、これらの性別役割分業も必然ではない。私たちの文化や社会が便利に築き上げてきたことを示す研究も多々ある。「ジェンダー平等」は引き続きアカデミー運動の重要な研究、活動テーマの一つだ。「はなしあい」の主体に「ジェンダーギャップ」はないだろうか。アカデミー組織内の会議体は「ジェンダーバランス」がとれているのだろうか。再検証してみる必要があるように思われる。

(元関西学院大学教授)

〈寄稿〉

## シユペネマン・クラウス氏が追い求めたもの

関西運営委員長・前代表理事 小久保 正さん



正月明けの1月6日の夜遅く、私の日頃使っていないメールアドレスに一通のメールが届いていた。開けてみると、「個人的なことを御報告致します。去年の10月から体の調子が悪かったので、12月に宇治武田病院で検査を受けました。12月25日にその結果をもらいました。膵臓癌です。お正月の關係で治療の相談は遅れています。ご迷惑をかけることとなります。すみません。ご報告まで。シユペネマン・クラウス」とあった。驚いて翌朝電話をかけ、京大病院でセカンドオピニオンを取ることを勧めた。彼は早速京大病院に電話したが、1ヶ月後しか受診できないという。仕方なく、武田病院で治療を

続けることにした。9日の午後自宅を訪問すると、彼は玄関まで出て来て、しばらく微笑んで話をしたが、つらそうであった。

12日から抗がん剤治療が始まったが、副作用がひどいので、すぐ断念された。苦しみがひどいので、自宅の近くにある仏教系ホスピスのビハラに入院することになった。そこは清楚で、静かな病院であった。家族や親しい人の面会も許されたので、我々も病床を訪ねると、痛みがかなり緩和されたようであった。これまでの働きに対し感謝の言葉を伝えると、かすかに応答した。

ドイツ在住の3人の子供達は、急ぎよ帰国を希望したが、コロナ感染症対策のため出入国が容易でなかった。しかしなんとか一人また一人と帰国し、最後に長男が病院に到着し彼の手を握ったのは、2月3日正午であった。その1時間後シユペネマン・クラウス

氏は、長年苦業を共にした連れ合いと3人の子供達に見守られて地上の生涯を閉じた。彼の遺志により、告別の祈り会は親しい人だけにより行われ、後日お別れ礼拝が日本キリスト教団宇治教会で、関西セミナーハウス活動センター所長代行榎本栄次牧師の説教により行われた。

彼は1970年に、32歳の時ドイツから来日し、83歳の今日に至る迄約50年間に亘る後半生を日本のアカデミー運動のために尽くした。

アカデミー運動とは、第二次世界大戦後ドイツとスイスのキリスト者の間で始まった、話し合いにより、対立と断断を越え、共生する世界を目指すという運動である。

それは、全ヨーロッパを荒廃に帰し、ユダヤ人大虐殺まで行った第二次世界大戦において、教会はその政治的・社会的責任を果たさなかったという反省に基づいて始まった。彼らにとつて、戦後なおドイツが東西に分かれ、対立と断断の中に置かれたことは大きな痛みであった。シユペネマン・クラウス氏は、その東西

ドイツ断断の悲哀を自ら味わった人であった。彼は父親がクエートリンブルグの農林試験所長であった時終戦を迎え、侵攻してきたソ連兵により父親を連行され、家族と共に狭い屋根裏部屋に閉じ込められることになった。母親は、監視兵に賄賂を握らせ、1時間だけ銃撃しない約束を取りつけ、子どもの手を引いて川を越えて西ドイツへ脱出することを試み、かろうじて成功したのだ。彼は長じてハイデルベルク大学で神学と哲学を学び、「エキユメニカル運動とロシアの共産主義」と題する論文を完成し、博士号を得た。彼にとつて、対立と断断を越えることは常に大きな課題であった。

彼は、ハイデルベルク大学在学中1年間アメリカのシカゴ大学に留学し、そこで日本から留学してきていた大島偕美さんと出会い、ドイツへ帰国して1年後に彼女と結婚していた。その後の次の働きに備えていた時、同志社大学神学部竹中正夫教授がドイツを訪れ、彼に1年間だけ日本に来てアカデミー運動に協力してくれるように要請した。

アカデミー運動は、1952年頃から日本にも紹介され、大学や財界、政界などのキリスト者の間に強い関心を喚起した。ドイツと同じく第二次大戦中、自国はもとより近隣諸国にまで荒廃をもたらした日本においても、対立と断断を越えて新しい共生の道を探る運動は共感を呼んだ。1960年には関東と関西に運営委員会が作られ、1961年に財団法人日本クリスチャン・アカデミーが設立され、1963年には大磯に最初のアカデミーハウスが作られた。並行して関西にもアカデミーハウスを作ろうとする運動が進められ、1962年に一人のキリスト者実業家が、京都修学院にある私邸を譲つてもよいと申し出られたことにより具体化した。その地は、比叡山麓の修学院離宮と曼殊院に隣接する京都市内を見下ろす高台にあり、静かな森に囲まれた豪壮な自然庭園と日本家屋、能舞台などを擁し、都会の喧騒を避け、心を静めて、国家、社会のあるべき姿を語り合うのに好適の地であった。そこに1967年宿泊室、会議室、食堂など

を備えた新棟が建設され、関西セミナーハウスが誕生した。その壁面や、廊下、小会議室には、日本の有力なキリスト教芸術家やアジアの作家の作品が掲げられ、集う人の思いを人を越えるものへと誘った。

このハウスを拠点に、様々な話し合い活動が始められた1970年に、シュペネマン・クラウス氏は、ドイツアカデミーの精神を携えて京都に到着した。

彼は、在住していたハイデルベルグに似て、山と川を配し、伝統文化の香りの豊かな京都に魅せられ、その郊外の静かな自然の中に位置するセミナーハウスを愛し、自ら地下足袋をはき、その整備と維持に精を出した。その庭にはやがて池を巡らせた清楚なお茶室が整えられ、能舞台と共に集う人を静肅な思いの中に見えるものを越える世界へと誘った。やがて新館には、彼が晩年を看取った同志社大学の女性ドイツ語教師ラウベンダーさんを記念する礼拝堂が、田中忠雄のステンドグラスを配して作られ、集う人に静想の場を提供した。セミ

ナーハウスに収蔵された日本およびアジアのキリスト教美術の作品は、次第に世界に類を見ないほど充実され、集う人の心を豊かにした。セミナーハウスを包む自然は、春には桜とさつき、初夏には新緑、秋にはもみじ、冬には雪

で装い、庭から望む西山の夕日とお茶室から望む月、井戸から汲み上げられる清水と共に、ここに集う人々を、世俗の束縛から解放した。かつて旧ソ連邦の著名なピアノリストのヴァレリー・アフアナシエフは、「徒然草」の作品に触れて魂の解放を味わったと述べていたが、シュペネマン氏

も、この関西セミナーハウスとそれを囲む自然の中に身を置く時、同じ思いを味わったのかも知れない。彼は、この懐深いセミナーハウスに日本各地から、また世界各地から様々な人が集い、ここで、現代社会の直面する様々な課題について、心を割った語り合いが進められ、それにより新しい共生の道が発見されていくことを期待した。

彼は、1970年に関西セミナーハウス主事に就任し、1年間の契約期間が終わった

後も日本に留まり、1977年からは同志社大学文学部と神学部の教授としての努めを果たしつつ、関西セミナーハウスに運営委員や運営委員長として関わり、アカデミー運動を支援した。さらに2003年からは財団理事長として、東西のアカデミー運動に係ることになった。理事長としての彼の最大の貢献

は、2006年に日本クリスチャン・アカデミーの理念をまとめ上げたことであつた。日本のアカデミー運動は、1963年代以来、大磯アカデミーハウス、関西セミナーハウス、それに後に作られた白老アカデミーハウスを中心に大きな期待を担って進められてきた。1989年ドイツにおいて、教会で持たれていた祈りと対話の集いがきっかけとなつて、東西を隔てる壁

が崩され、東西ドイツの統一が平和裏に達成されたことは、日本のアカデミー運動にとつても大きな励みであつた。

しかし大磯アカデミーハウスは1987年に閉じられ、その代わりに作られた箱根アカデミーハウスも1996年

に閉じられ、白老アカデミーハウスも1997年に閉じられた。以後日本のアカデミー運動は、東京の日本キリスト教会館内に置かれた関東活動センターと関西セミナーハウス活動センターを拠点に進められることになった。アカデミー運動は何を目指すが改めて問われる時を迎えていた。そこで東西の運営委員会

が議論を重ね、2006年次のアカデミーの理念をまとめ挙げた。

アカデミーは、キリスト教の社会に対する奉仕の一つの姿である。ゆえに、アカデミーは、社会と人々が持つ様々な価値の多様性を尊重しながら、正義、平和、いのちが尊ばれる社会の実現を目指す運動である。

出合い  
アカデミーは、分裂した社会の中で、さまざまな分野の異なる立場の人々に出合いの場を提供する。

はなしあい  
アカデミーは、対立の多い現代社会において、新しいヴィジョンが生まれ

るためのはなしあいを行う。  
支えあい  
アカデミーは、一人の力が限られている現代社会において、創造的な考えを持つ人々が集い、つながりあい、社会の新しい可能性を開くためのネットワークの場を作る。

この理念には、シュペネマン・クラウス氏の思いが強く反映されており、この文章は彼の起草によるものである。以後東西のアカデミー運動は、この理念を柱に展開されることになった。彼は、理事長退任後も、財団顧問としてこの理念実現のために尽力した。

しかし、その実現にはいくつかの困難があつた。アカデミー運動は、参加者が共に同じ施設に泊まり、時間をかけゆっくり話し合うことを大切にす。関西セミナーハウスでも、参加者がハウスに泊まり、時間をかけて語り合い、食事を共にし、食後にワインやビールを酌み交わし、合間に庭を散策し、ロビーで談笑し、お茶室でお茶を楽しみ、

礼拝堂で静想の時を持ち、人と人が出会うことが期待された。

しかし社会は、直接会って、一つの課題を時間をかけて議論し、考えを深めて解決の糸口を探ることよりも、結論を急ぎ、それをインターネットで一方的に主張することを好む傾向を強めていった。その結果、関西の活動センターでも、開発教育セミナーと原発フォーラムを除き、宿泊プログラムが無くなり、日帰りの講演と質疑応答だけの、単発のプログラムがほとんどになつていった。これらのプログラムは、大学やカルチャーセンターの市民講座と異ならないものになりがちであった。一方アカデミー運動は、キリスト教の社会に対する奉仕の一つの姿であるべきものである。そこではキリスト教会が、対立と分断を越え、和解の道を示すことを自分の務めとして受け止め、アカデミー運動に主体的に関わり、運動の担い手を育て、運動を経済的に支援することが期待される。しかし日本の教会には、そのような理解が広がらなかった。

そのため、関西セミナーハウスは、アカデミーが主催、共催するプログラムだけによっては維持することが難しくなり、その利用を一般の研修団体や個人観光客にまで広げていった。その結果一般利用者の中にもこの施設の特徴を理解して下さる人が増え、ハウス経営も次第に安定化していった。しかし、2020年初頭からのコロナ感染症の急速な広がりは、主催、共催プログラムはもとより、一般の研修会の開催も困難にし、関西セミナーハウスは休業を余儀なくされた。

ドイツにおいても、ここ数年いくつかのアカデミーハウスが閉じられたと伝えられている。しかしそれでも、チェルノブイリとフクシマ原発事故をきっかけに、ドイツが原発を選択するに至ったのは、教会がイニシアティブを取ったアカデミー精神に基づくと市民的対話が大きく影響したと言われている。

今や世界は、コロナ感染症の広がりにより大きな混乱の中にあり、他を非難する一方の主張ばかりが飛び交い、出口を見出せないでいる。今こ

求められているのは、アカデミー精神に基づく真摯な話し合いである。立場の違いを越えて、信じるところを忌憚なく語り合い、聴き合い、理解し合い、繋がり合つて、新しい共生の道を生み出していくことである。

シュペネマン・クラウス氏は、ハウスが休業状態に入つた後も、京都の南の城陽の住いから京都の北の修学院のハウスまで愛車のフォルクスワーゲンを駆けて通い続けた。彼は、この先に何を望み

見ていたのであろうか？彼は、関西セミナーハウスが、対話の場として復活し、世に希望の途を指し示していくことをどんなに強く願っていたことであろう！

彼がその生涯の終わりを、異国の地の、異教の人達により準備されたホスピス、ビハリーに委ねたのは象徴的である。彼はそれを通し、地上の所属集団の境を越えて、約束された祝福の地へ歩み行くべきことを示したのであつた。

関西セミナーハウス活動センター

●2020年度 修学院フォーラム「社会 第2回」  
「キリスト教徒はコロナ禍をどう見るか」

作家、元外務省主任分析官 佐藤 優さん  
2021年2月7日(日)  
会場：関西セミナーハウスおよびオンライン



佐藤 優さんを講師に迎えての修学院フォーラムは、同氏が同志社大学神学部学生であった時の恩師で、当財団顧問のシュペネマン・クラウス先生の働きに協賛して、約10年前から始まったものである。同氏は、毎年1〜2月に関西セミナーハウスを訪れ、

講演とはなしあいの会を手弁当で持つて下さった。しかし、今年はコロナ感染症の広がりにより関西セミナーハウスが閉じられているので、Zoomによる開催となった。しかもシュペネマン先生は、このフォーラム直前の2月3日にすい臓がんのため急逝されたので、師の働きを思う会となった。しかしZoomであった故に、遠隔の地からも参加して頂け、参加者は67名に上つた。

佐藤さんは、全世界を覆っているコロナ禍をどう見るかについて、世界の代表的識者の見方を紹介した後、キリスト者はどう見るかを次のように語った。イスラエルのユヴァル・ノア・ハラリは、このコロナ禍の後、世界はこれまでと全く異なつたものになるだろうと言ひ、フランスのエマニュエル・トッドは、このコロナ禍の後でも世界は本質的に何も変わらず、現在の矛盾が一層拡大されるだけである、と言う。しかし両者とも、このコロナ禍によりグローバルゼーションに歯止めがかり、国家間、地域間、階級間、ジェンダー間の格差が

広がるだろうことに關しては一致する。例えば沖繩の母子家庭は、地域間、階級間、ジェンダー間の格差によりひどく苦しんでいる。しかし政府は、これらの困窮に対し何ら有効な対策を打っていない。その結果、政府の支持率は低っているが、それにより現政権が倒れることもない。

一人一人は良心的であろうとしても、全体としては何も変わらない構造的悪がある。聖書は、人は欲する善を為し得ない罪の下にあると言っている。罪が形をとると悪となる。悪には、形而上的悪、道徳悪、自然悪があるが、コロナ禍は、道徳悪と自然悪が合わさったものである。チェコの神学者フロマートカによれば、悪は人を惑わせ、人がこの世界の支配者であるかのように思い上らせる。コロナ禍は人間が増した結果もたらされたものであるのに、ワクチンさえあれば制圧できるかのように思い上らせている。このような状況下に必要なことは、自己絶対化の罪が神に最も近い所に入り込みやすいことに心を止め、この世界を神様からの預かり物として受

け止め、受けるより与える方が幸いであることを心しつつ

●2020年度 修学院フォーラム「社会」第3回

「エネルギーを考える」第9回  
「原子力に頼らない未来の創り方」

上智大学神学部講師 久保 文彦さん  
グリーンピブルズ、W1株式会社代表取締役 竹村 英明さん

会場：関西セミナーハウスおよびオンライン  
2021年2月20日(土)

原子力発電について考える  
修学院フォーラムは、東日本を壊滅させるのではないかと恐れられた2011年のフクシマ原発事故を契機に始まった。今年はその事故から11年目である。しかし未だに爆発した原発は手つかずのままであり、周辺地域は放射能で汚染されたままであり、汚染水は貯まり続けている。今なお4万人近い人が故郷を追われ

時間をかけて考え合うことを特徴としてきた。しかし今回は、コロナ禍により関西セミナーハウスが閉じられているので、onlineで持つことになった。開催時間も1日に短縮せざるを得なかった。しかしonlineである故に、北海道や長崎県など遠隔の地からも参加者を得ることができた。参加者は23名で少なかったが、時間一杯考え合うことができた。

対的なものを見分け、真の神を拝し、偶像崇拜を避けよと勧めている。しかしフクシマ原発事故において私達は、自然の摂理を知り尽くしており、大地の変動にも対応できる優れた技術を有しているという思い上がり陥っていた。フクシマ原発事故は、科学技術の成功に目が眩み、自己の能力の限界を顧みない人間の傲慢、すなわち「偶像崇拜」が引き起こした出来事だと言える。

聖書は、隣人の権利を守り、いのちを活かせと勧めている。莫大なエネルギーを生じる核分裂は、一人人類の福祉に大きく貢献できるかに見えた。しかし核分裂は、生命活動に有害な放射線を長期に亘って発し続ける核分裂生成物を作らずにはおかない。故に原発を、自然と生命を損なうこと無しに動かすことはできない。しかも原発は、核兵器製造技術を転用したものである。いつでも平和利用を軍事利用に転用し得る。従って脱原発は核兵器廃絶と同時に進められねばならない。



私達は、過去の災いから何を学び、何を将来に生かそうとするのかを考えるためにこの会を持つてきた。この会は従来、参加者が関西セミナーハウスに集い、寝食を共にし、

聖書は、絶対的なものと相

一方竹村英明さんは、市民

電力連絡会を設立し、再生可能エネルギー(再エネ)発電会社を立ち上げた人である。今回は「電気を使って、社会を変えよう」と題して次のように語られた。日本の電力需要は、原発や化石燃料に頼らなくても、太陽光や風力を始めとする再エネだけで賄って余りある。しかも太陽光発電としては、山や森を破壊するメガソーラは不要であり、農地を利用した太陽光発電だけで充分である。しかし政府と大手電力会社は、原発、石炭天然ガスなどを温存するため、再エネを送電線につながらせない、再エネの固定価格買取制度を廃止する、再エネを電力市場から締め出すなどにより、再エネの成長を阻もうとしている。



それにもかかわらず、再エネを進める人達は、例えば農業と太陽光発電を共存させるソーラシェアリング、小規模の水力発電、地熱発電、風力発電などの小規模発電所を各地に作り、その電気を近くの消費者に配ると共に、互いに繋がり合うネットワークを作り、大手電力会社の電力や長距離送電線に頼らない、再エ

ネの電力網を日本中にするうとしていく。両講師の脱原発の理由と戦略は明確であり、説得力に富んでいた。しかし、講演後ははなしあいを通して感じられた疑問は、それにもかかわらずなぜ、現実には脱原発が進まないのかである。脱原発へ

の動きは、日本、韓国、ドイツなどを除いて、キリスト教界においても鈍い。今なお多くの国は、日本も含めて経済政策上、国家安全政策上、原動力への依存を抜け出せないでいる。それが間違った選択であると知っていても。

●2020年度 修学院フォーラム「いのち」第1回  
 「すべての命を大切に  
 NPO法人こうのとりのゆりかご in 関西の  
 理念と現状」

ゆりかご in 関西理事長 人見 滋樹さん  
 会場：関西セミナーハウスおよびオンライン

講師の人見滋樹さんは、もともとと京都大学医学部で肺癌を中心とする呼吸器外科と肺移植の専門医として活躍された方である。その後高槻赤十字病院でホスピスを立ち上げ、多数の患者さんを看取られ、さらに3年半前に標記のNPO法人を立ち上げられた。今回人見さんはまず、人の受精から出産に至る動画を通して、人が生まれることは一つの奇跡であると示し、さらに中絶の実際の動画を通し、それがどんなに残酷な殺人であるかを示された。ところが現在日本では、1年間に18万2千件の中絶が報告されている。20歳未満および20

24歳では、それぞれ妊娠した数の中墮胎した数が61%および34%に及んでいる。それぞれの年代での出生数は、約9千および8万であるのに対し、墮胎数は1万4千および4万である。様々な少子化対策が論じられているが、まず妊娠した子どもが中絶されずに生まれるようにすることが重要である。

そのためには、思いがけない妊娠を避けるように、若い人が自分自身や友達を大切に、性被害者にも性加害者にもならない性教育が必要であり、親が育てられない子を社会が育てる特別養子縁組・里親などの推進と支援が必要である。そのためNPO法人こうのとりのゆりかごが、熊本に次いで関西でも作られた。ここでは、産婦人科、精神科を含む医師、助産師、看護師、弁護士、心理士、家裁調停委員などの専門委員のサポートを得ながら、思いがけない妊娠、出産に悩む妊婦とその家族のための電話、メールおよび面談事業が行なわれており、施設や病院との協力関係も強化している。

現在日本には実親と一

緒に過ごせない子どもが45,000人おり、養子縁組を希望する夫婦は6,000組ある。同法人はこの間を繋ごうとしている。たとえ重い障がいを持つ子どもでも、支えがあれば幸せに生きることができ、支える者も、その子から励まされる。子どもは社会皆の財産である。子どもとも社会皆で育てたい、と結ばれた。40名以上の方がリモートで参加して下さったが、PCの調子が悪く、画像をうまく送れず、講師及び参加者に多大のご迷惑をおかけすることになった。



2020年度賛助会費・寄付金納入者ご芳名  
ご支援に感謝申し上げます。

2020年4月1日～2021年3月31日(順不同・敬称略)

財団本部	友野 富美子	萩原 好子	今川 泰彦	樋口 よう子	林 律
終身会員	中井 博雅	藤垣 昭雄	匿名	日野 多栄子	東 千代
神保 正男	中富 顕隆	三好 祐輝	宇野 稔	平田 哲	姫野 真知夫
神保 信子	中村 信博	森山 浩二	浦 晴子	平林 喜博	平林 喜博
中井 博雅	萩原 好子	八重樫 捷朗・芙美恵	大谷 光真	福留 順子	広島 輝夫
小久保 正	林 律	吉居 美緒	小笠原 純	伏木 信次	藤田 敦子
野田 純一	藤田 誠	吉田 博	岡野 彩子	藤倉 寿美子	藤永 春子
島田 恒	許 昌範	吉永 直子	岡安 茂祐	細田 和民	細田 和民
横野 朝彦	松原 悦子	神学生書籍感謝	織田 雪江	間瀬 啓允	松本 嘉一
寄付金	松本 誠	川浦 弥生	小山 稔	松岡 蓉子	宮本 桂子
棟方 信彦	毛利 亮子	中井 博雅	金山 顕子	松田 光代	村上 みか
奥田 豊	谷津 楨子	早川 真	上條 美代子	松本 嘉一	桃山アシュラム有志
関東活動センター	大和 孝明	関西セミナーハウス	川北 かおり	真鍋 裕子	森口 克洋
賛助会費	吉田 豊	寄付金	関西青年アシュラム	丸山 まり子	家形 日出
市川 邦雄	日本基督教団霊南坂教会	株式会社アイウィル	喜多村 やよい	南 和子	柳井 一朗
大石 貞子	クリスマス寄付金	石田 光男	木下 壽子	宮本 桂子	山崎 陽子
大川 芙喜子	飯田 庸子	井上 康三郎	葛原 茂樹	棟方 信彦	山添 みどり
大鹿 康廣	池内 友子	今若 京子	黒田 睦子	村上 みか	山本 知恵
大橋 祐治	日本キリスト教団市川三本松教会	岩堀 敬子	古賀 暢子	森 ユキエ	脇坂 照世
戒能 信生	日本基督教団浦安教会	牛尾 宣夫	株式会社こころ	森口 克洋	和田野 勢津子
神谷 伊勢男	日本キリスト教団鹿兒島	武田薬品京都農園退職者	近藤 恵	八杉 恵	クリスマス寄付金
川浦 弥生	加治屋町教会	親睦会えんじゅ会	斉藤 洋子	伊藤 正子	伊藤 正子
上林 順一郎	河原田 美哉子	大原 松雄	酒井 涼子	柳井 繁雄	今井 奈都子
北原 和夫	上林 順一郎	岡本 仁彦・泰子	桜井 希	山本 知恵	岩坂 二規・泰子
古賀 博	北原 和夫・恵美	奥田 豊	佐藤 友紀	横田 穂美	匿名
坂下 道朗	日本キリスト教団経堂緑教会	神崎 清一	佐野 千枝子	吉中 直子	浦 晴子
島田 治夫	恵泉女学園中高・宗教部	神田 健次	島田 宗洋	李 善恵	大門 義和
全国教会婦人会連合	小林 誠治	京都音楽教育の会	シュベネマン クラウス	医療法人わたなべクリニック	長村 光造
高畑 昭久	齊藤 潤	株式会社京都スタッフ	白方 誠彌	寄付金	織田 雪江
竹中 百合子	匿名	小久保 正	新宗連大阪事務所橋本浩志	相浦 和生	川北 かおり
只野 哲	神保 正男	柴田 賢司	陶村 世佳子	網野 俊賢	黒井 久代
立原 敬一	日本基督教団千代田教会	株式会社柴橋商会 京都支店	菅 恒敏	荒井 加代子	斉藤 洋子
東矢 高明	藤 知住	島田 恒	關岡 一成	伊藤 威知郎	在日大韓基督教京都教会
徳久 俊彦	東矢 高明	株式会社新経営サービス	高寺 幸子	伊藤 正子	笹部 一正
中村 信博	中井 博雅	神保 正男	多木 秀雄	匿名	佐野 千枝子
西間木 公孝	林 秀雄	田中 克郎	竹中 百合子	織田 雪江	繁永 幸久
根津 建	日本基督教団原宿教会	ダマヌール日本 神戸セ	橘 俊子	金山 顕子	島田 恒
原 牧人	日本基督教団ひばりが丘教会	ンター 中川 久子	立石 昭三	川北 かおり	シュベネマン クラウス
平井 文則・祐美子	本多 峰子	津田 友一	田中 義信	京滋キリスト者平和の会	杉本 尚司
松浦 茂長	村松 庸子	中井 博雅	田中 潤治	小久保 正	高橋 望
山根 誠之	最上 光宏	中田 政義	田沼 信子	小崎 眞	多木 秀雄
横野 朝彦	横浜雙葉中学・高等学校	中村 信博	田辺 大典	中村 武田	中村 正一
吉田 博	日本基督教団洛南教会	中村泰洋園 中村 英明	手銭 秀夫	繁永 幸久	竹中 百合子
寄付金	神学生交流プログラム寄付金	野嶋 和雄	都木 かおり	島田 恒	堤 龍春
足立 素夫・光	縣 洋一	長谷川 義紘	徳丸 延子	滝澤 延紀子	鳥井 清司
池内 友子	井口 拓人	林 宗一郎	殿村 元一	武山 泰子	日本基督教団希望ヶ丘教会
石橋 光朗	浦上 充	株式会社ピーテック	友前 尚子	丹野 きみ子	日本基督教団錦林教会・
牛田 匡	大橋 祐治	廣田 吉久	鳥井 清司	坪野 えり子	ベスタロッツ保育園
大石 貞子	笠原 光見	株式会社藤木工務店京都支店	鳥井 操	徳丸 延子	日本基督教団世光教会
大野 朝男・寿子	加藤 真規子	松村 美代	中上 和子	友前 尚子	日本基督教団平安教会
萩原 充	川北 かおり	武藤 高司	長塩 滋子	鳥井 清司	日本基督教団洛南教会
小原 武夫	小久保 正	森口 克洋	中村 信博	鳥井 操	根岸 宏邦
戒能 信生	シュベネマン・クラウス	山内 博	中山 晴美	中島 健二	信岡 茂浩
金光 順子	神保 信子	山田 晴信	奈倉 道隆	中村 信博	東 千代
川北 かおり	須賀川教会復活の物購入者一同	ワケンホールディングス株式会社	鳴海 信子	日本基督教団京都教会	日野 多栄子
川崎 達也	角田 隆史	関西セミナーハウス活動	西岡 裕芳	日本基督教団西が丘教会	藤田 敦子
小泉 麻子	関 伸子	センター	西川 淑子	日本基督教団空室町教会	藤田 恭子
小林 義彦	関田 寛雄	賛助会費	日本基督教団西が丘教会	日本基督教団洛西教会	真鍋 裕子
在日本韓国YMCA	友野 富美子	浅川 具美	濱田 真奈美	日本基督教団和歌山衛生伝道所	南 和子
佐瀬 萬亀	中井 博雅	浅田 涼子	早川 良彌	根岸 宏邦	柳井 一朗
神保 信子	中西 綾子	浅野 献一	林 律	野田 純一	山本 俊正
菅原 伸郎	仲程 愛美	網野 俊賢	春名 康範	延原 正海	吉田 力
高柳 允子	並木 浩一	五十嵐 萬里子	比嘉 美智子	ハッピーチャー保子	李 善恵
東京グロリア教会 許昌範	根津 建	糸原 良禎・由美子	東 千代	早川 良彌	和田野 勢津子

プログラム案内

◆関東活動センター

■2021年度話し方ワークショップ
「礼拝の言葉を豊かに」(ステップアップ講座)

講師:友野 富美子さん(日本キリスト教団吉祥寺教会牧師)
日時:7月中止、9月21日より再開
予定 火曜14:00~16:00

会場:日本基督教団巣鴨ときわ教会
参加費:1回 1,200円(全10回)

■2021年度 聖書を読む講座I
(共催:早稲田奉仕園)

「上林順一郎牧師と一緒に聖書を読もうーこの時代の中で聖書からメッセージを読み解く」『創世記(原初史)から読み解く現代第3期~神、自然、人間をキーワードに』

講師:上林 順一郎さん(日本キリスト教団引退教師)

東 西 南 北

◎財団本部

奥田 豊、事務局長、3月31日付退職。

神崎清一、4月1日付、事務局長就任。

森口明洋、4月1日事務局次長(関西セミナーハウス館長兼任)就任

◎関西セミナーハウス

石本紅美、フロント(職員)、3月31日付退職。

財団本部

http://www.academy-nippon.com

関東活動センター

http://www.academy-tokyo.com

関西セミナーハウス

http://www.kansai-seminarhouse.com/

関西セミナーハウス活動センター

http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

日時:5月~11月、第4水曜
14:00~16:00

参加費:全6回 6,000円(学生3,000円)
方法:会場(早稲田奉仕園セミナーハウス)およびZoomによるオンライン講座

■2021年度 聖書を読む講座II
(共催:早稲田奉仕園)

「マルコ福音書をジックリと読む」第4期

講師:山口 里子さん(聖書学者)
日時:4月~2022年2月、第2火曜
18:30~20:00

参加費:全10回 8,000円(学生4,000円)
方法:Zoomによるオンライン講座

◆東・西活動センター・早稲田奉仕園共催

■2021年度関東フォーラム 宗教対話I /修学院フォーラム「社会」I

<連続講座> アンコール開講
「日本キリスト教史を読む」I(明治篇)

講師:戒能 信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

日時:5月~12月、第2木曜
14:00~16:00

参加費:全8回 6,000円(学生4,000円)
方法:Zoomによるオンライン講座

◆関西セミナーハウス活動センター

修学院フォーラムはオンライン(Zoom)と会場(関西セミナーハウス別館、10名まで)併用

■2021年度修学院フォーラム「社会」第3回「シュリンクするまち・リポ-

ンするまち」

講師:高田 清太郎さん(株式会社高田建築事務所 代表取締役会長)

日時:7月24日(土)13:30~15:50
参加費:1,000円(学生500円)

■2021年度修学院フォーラム「福祉」第1回「気候変動とキリスト教~人新世と宗教~」

講師:福嶋 揚さん(神学博士)
日時:9月11日(土)13:30~15:50
参加費:1,000円(学生500円)

■2021年度開発教育セミナー

第2回「コロナ禍でくらす外国人技能実習生の今」

講師:齊藤 善久さん(神戸大学大学院国際協力研究科准教授)

日時:7月11日(日)10:00~16:00
参加費:3,000円

方法:Zoomによるオンライン開催

第3回「日本と韓国の過去・現在・未来~共に生きる隣人として~」

講師:太田 修さん(同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教員)

日時:9月12日(日)10:00~16:00
参加費:3,000円

会場:京都市地域・多文化交流ネットワークサロン(予定)

修学院フォーラム記録 YouTube 限定公開

詳細は、関西セミナーハウス活動センターウェブサイトをご覧ください。

賛助会費・寄付金報告

2021年3月1日~4月30日
(順不同・敬称略)

◆関東活動センター 賛助会費

徳久 俊彦 5,000
河原田 美哉子 5,000
只野 哲 5,000
大橋 祐治 5,000
林 秀雄 3,000
池内 友子 3,000

寄付金
許 昌範 5,000
日本基督教団霊南坂教会 10,000
在日本韓国YMCA 10,000
高柳 充子 1,000
森野 善右衛門 3,000
石橋 光朗 2,000
中井 博雅 10,000
増田 博 5,000
神学生プログラム寄付金
松下 恵子 1,000
関田 寛雄 5,000

◆関西セミナーハウス 寄付金

武藤 高司 10,000

◆関西セミナーハウス活動センター 賛助会費

岡野 彩子 5,000
比嘉 美智子 5,000
網野 俊賢 5,000
小山 稔 3,000
小澤 妙子 10,000
佐々木 紘児 5,000
高谷 泰市 10,000
岡野 彩子 5,000
植村 敏子 10,000
浅田 凉子 10,000
大島 順子 10,000

寄付金(クリスマス寄付金を含む)

金山 顕子 12,500
鳥井 清司 4,600
日本基督教団平安教会 5,000
中島 健二 20,000
日本基督教団京都教会 10,000
織田 雪江 3,120
柳井 一朗 7,420
日本基督教団洛西教会 5,000
網野 俊賢 3,460

以上感謝をもってご報告申し上げます。